

Ⅲ 試験研究の成果

1 試験研究成果

(1)平成23年度成果数

成果区分	普及 (普及に移しうる成 果)	指導 (技術指導に参考と なる成果)	行政 (行政施策等に反映 すべき成果)	研究 (研究手法等に関す る成果)	総計
1 農業構造・経営管理	1	2	3	0	6
2 水稻	2	3	3	0	8
3 畑作物	0	3	0	0	3
4 果樹	0	3	0	0	3
5 野菜	0	2	0	0	2
6 花き	1	2	0	0	3
7 作物バイオテクノロジー	0	0	0	0	0
8 作業技術	1	1	0	0	2
9 環境保全	0	0	0	0	0
10 土壌作物栄養	1	3	0	1	5
11 病虫害制御	0	3	0	0	3
12 食の安全	0	0	0	0	0
13 乳用牛	0	1	0	0	1
14 肉用牛	0	2	6	1	9
15 中小家畜(豚・鶏)	0	1	0	0	1
16 草地・飼料作物	3	1	0	1	5
17 家畜バイオテクノロジー	0	1	2	0	3
18 畜産環境	0	0	0	0	0
19 県北農業振興	0	4	0	0	4
[計]	9	32	14	3	58

普及:農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果

指導:普及指導員等の技術指導上の参考として適当と認められる成果

行政:行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの

研究:研究手法・分析手法、育種母本等に関するもの

(2) 平成23年度成果名一覧

【普及(普及に移しうる成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室
農業構造・経営管理	H23-普-01	りんどう選花作業台セットによる選花作業時間の短縮効果	農業経営
水稲	H23-普-02	早生低アミロース水稲品種「岩手91号」の育成	作物(技術)
水稲	H23-普-03	大吟醸酒原料向け水稲品種「岩手酒98号」の育成	作物(技術)
花き	H23-普-04	10月上旬開花の切り花向け青色リンドウF1品種「いわてVLB-1号」の育成	野菜花き
作業技術	H23-普-05	小畦立て播種栽培技術マニュアル	プロジェクト
土壌作物栄養	H23-普-06	園芸野菜施肥設計支援シート	生産環境
草地・飼料作物	H23-普-07	乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「ロイヤルデントTH680」	家畜飼養・飼料
草地・飼料作物	H23-普-08	飼料用トウモロコシの不耕起栽培における二毛作前作ライ麦の最適刈取時期	家畜飼養・飼料
草地・飼料作物	H23-普-09	飼料用トウモロコシ圃場および不定形・波丘草地におけるトラクタ搭載型GPS作業支援システムを活用した除草剤散布作業精度の向上	外山畜産

【指導(技術指導に参考となる成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室
水稲	H23-指-01	津波被災水田において栽培した水稲の事例解析	作物(技術)
果樹	H23-指-02	津波被災果樹園地におけるりんごの生育状況	果樹(技術)
野菜	H23-指-03	津波被災きゅうり圃場における除塩対策	南部園芸
土壌作物栄養	H23-指-04	津波被災水田(無作付け)での自然降雨によるEC推移	生産環境
農業構造・経営管理	H23-指-05	水田農業経営体の特徴と経営展開のポイント	農業経営
農業構造・経営管理	H23-指-06	小ぎくの収穫調製作業に影響を及ぼす要因と改善方向	農業経営
水稲	H23-指-07	平成23年岩手県産水稲の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析	作物(技術)
水稲	H23-指-08	岩手県における水稲主要品種の幼穂形成期追肥実施を7月上旬に判定する目安	作物(技術)
畑作物	H23-指-09	平成23年岩手県産大豆の生育経過の概要と特徴	作物(技術)
畑作物	H23-指-10	平成23年岩手県産小麦の生育経過の概要と特徴	作物(技術)
畑作物	H23-指-11	麦の雑草防除の動向とイネ科雑草に有効な土壌処理剤の特性	作物(技術)
果樹	H23-指-12	りんごに対する落果防止剤(1-ナフタレン酢酸ナトリウム)の使用法	果樹(技術)
果樹	H23-指-13	SS用ドリフト低減型ノズル及び立木用ドリフト低減型防除機の特徴(追補)	果樹(技術)

分野	成果番号	成果名	担当研究室
野菜	H23-指-14	アスパラガス伏せ込み促成栽培11月生産技術	野菜花き
花き	H23-指-15	リンドウ早生品種における発蕾から開花までの日数増加・減少程度の判断指標	野菜花き
花き	H23-指-16	リンドウ越冬芽を用いた超低温保存法	野菜花き
作業技術	H23-指-17	無コーティング種子を使用した水稲作溝同時湛水直播栽培の生育の特徴と管理のポイント	プロジェクト
土壌作物 栄養	H23-指-18	特別栽培米専用肥料の連用による収量・品質及び可給態窒素への影響	生産環境
土壌作物 栄養	H23-指-19	エゾリンドウの主塊茎と副塊茎に着目した株の経年推移	生産環境
病虫害制 御	H23-指-20	アカスジカスミカメの斑点米形成時期	病理昆虫
病虫害制 御	H23-指-21	岩手県のリンゴ園地に生息するカブリダニ類	病理昆虫
病虫害制 御	H23-指-22	転炉スラグを用いた土壌pH改良によるキュウリホモプシス根腐病の被害軽減	病理昆虫
乳用牛	H23-指-23	育成中期（体重270kg）までの育成牛に搾乳用TMRを併給する飼料給与技術	家畜飼養・飼料
肉用牛	H23-指-24	蛋白質源として大豆サイレージを給与した日本短角種の肥育	家畜育種
家畜バイ オテクノ ロジー	H23-指-25	黒毛和種種雄牛の一価不飽和脂肪酸割合育種価の推定	家畜育種
肉用牛	H23-指-26	各種要因が黒毛和種子牛市場価格に及ぼす影響の性別による違いについて	種山畜産
中小家畜 (豚・鶏)	H23-指-27	パークシャー種の肥育後期(体重70～110kg)における飼料用米配合飼料給与が発育・肉質に及ぼす影響	家畜育種
草地・飼料 作物	H23-指-28	作溝式播種機を用いた早春牧草追播における入牧時草丈が牧草定着に及ぼす影響	外山畜産
県北農業 振興	H23-指-29	促成アスパラガス廃根株を用いたレタス圃場のキタネグサレセンチュウ被害軽減技術	園芸（県北）
県北農業 振興	H23-指-30	岩手県雑穀遺伝資源データベースシステム	作物（県北）
県北農業 振興	H23-指-31	雑穀の移植栽培による抑草効果	作物（県北）
県北農業 振興	H23-指-32	雑穀品目別主要病虫害の被害様相と発生時期	作物（県北）

【行政(行政施策等に反映すべき成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室
農業構造・経営管理	H23-行-01	岩手県産レタスの競争ポジショニングと対応方向	農業経営
農業構造・経営管理	H23-行-02	復興モデル作成支援シート	農業経営
水稲	H23-行-03	平成23年度水稲奨励品種決定試験本調査・現地調査結果	作物(技術)
水稲	H23-行-04	平成24年度水稲奨励品種決定試験本調査・現地調査新規供試系統	作物(技術)
水稲	H23-行-05	平成24年度水稲新配付系統(候補系統)	作物(技術)
肉用牛	H23-行-06	日本短角種産肉能力検定(直接法)成績	家畜育種
肉用牛	H23-行-07	日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	家畜育種
肉用牛	H23-行-08	黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産
肉用牛	H23-行-09	黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産
肉用牛	H23-行-10	黒毛和種種雄牛別枝肉成績	種山畜産
肉用牛	H23-行-11	黒毛和種子牛市場における県有種雄牛の評価	種山畜産
家畜バイオテクノロジー	H23-行-12	種雄牛「菊福秀」のQTL解析結果と後継牛のQTL保有状況	家畜育種
家畜バイオテクノロジー	H23-行-13	県内の黒毛和種および日本短角種集団においてNCAPG遺伝子型多型は枝肉重量とロース芯面積に影響を及ぼす	家畜育種
農業構造・経営管理	H23-行-14	岩手県における近年の農地流動化の特徴と地域性	農業経営

【研究(研究手法等に関する成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室
土壌作物栄養	H23-研-01	エゾリンドウの塊茎と芽序に着目した株分解法	生産環境
肉用牛	H23-研-02	画像ファイルからの閉区間面積測定ツール	家畜育種
草地・飼料作物	H23-研-03	人工衛星画像を用いた大規模草地の実草量の推定	外山畜産

2 追跡評価

(1) 評価視点

岩手県農業研究センター試験研究課題評価実施要領別表5の規程により、「成果の活用状況」について、「現在も有効な成果であるか」「成果が経済活動等で活用されているか」の評価視点で追跡評価を実施。

(2) 追跡評価の調査方法

ア 評価1(評価の視点「現在も有効な成果であるか」)

(ア) 評価対象 平成9年度から平成19年度までに公表した「普及」、「指導」区分の試験研究成果

(イ) 評価方法 成果の主査研究室が関係研究室と調整の上、自己評価

(ウ) 評価区分

- A:(現在でも)有効
- B: 目的達成(既に、成果の目的を達成し、現在では有効性がない)
- C: 後年度の成果に反映(更新)
- D: 無効(Bの概念にふくまないもの)

イ 評価2(評価の視点「成果が経済的活動等で活用されているか」)

(ア) 評価対象

- a 平成20年度に公表した「普及」区分の研究成果
- b 平成20年度に公表した「指導」区分の研究成果から評価対象として選定したもの

(イ) 評価方法

a 「普及区分」

(a) 本庁各室課が定める要綱・要領等に基づき検討されている成果は、自己評価を実施(別紙様式「平成22年度追跡評価調査(普及区分)」)

- ① 農作物奨励品種等の決定及び改廃に関する要綱(奨励品種等)
※ 農産園芸課が所管する稲、麦類、豆類、果樹、野菜、花き等が対象
- ② 岩手県農作物病害虫・雑草防除指針作成要領(農薬の採用・使用上の留意点等)
- ③ いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)
- ④ 日本短角種集団育種推進事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)

(b) 上記(a)以外の成果は、中央農業改良普及センターに調査を依頼(別紙様式「平成23年度追跡評価調査(普及)」)

(c) 評価区分

- ① 農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満～50%)、C(50%未満～25%)、D(25%未満)
- ② 成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果
A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)
- ③ 成果活用等により地域(農家)に与えた具体的な効果(成果が活用されない要因)

a 「指導区分」

(a) 中央農業改良普及センターに次の調査を依頼する(別紙様式「平成23年度追跡調査調査(指導区分利用状況)」)。

(b) 評価区分

- ① 技術指導の参考になったか:A(大いに参考になった)、B(参考になった)、C(あまり参考にならなかった)、D(参考にならなかった)
- ② 指導効果(技術改善、技術水準の向上、指導効率の向上等):A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(まったくなかった)

(3) 追跡評価結果(評価の視点「成果が経済的活動等で活用されているか」)

ア 普及区分

(ア) 農業研究センターが自己評価した成果

No.	<code>成果名	普及状況	効果	評価コメント (成果活用等による効果等)
1	(H20-普-02)品種 食味に優れ、草丈が低く栽培しやすい半もち・短稈の早・中・晩生ヒエ「ヒエ岩手1号」「ヒエ岩手2号」「ヒエ岩手3号」【作物県北<作物県北>】 【目標→現状】 ヒエ岩手1号: 県北部畑1ha →0.4ha(H22) ヒエ岩手2号: 全県水田26.5ha →28ha(H22) ヒエ岩手3号: 県中・県南部水田5ha →実績なし	A	B	「1号」は県北の畑地帯で栽培され、県北地域の製パン業者が市販する「雑穀パン」の原料に用いられた。「2号」は県下最大のヒエ産地である花巻地域で栽培され、「雑穀ミックス」の原料として地元業者によって全国的に販売されている。2品種合計の普及面積は目標の87%に達し経済活動でも活用されていることから、本成果の活用効果は認められる。 しかし、いずれも複数の原料を用いた雑穀製品内の一部材料としての利用に止まっている。ヒエオリジナル品種に着目し、その食味特性を活用した製品は試作に止まっており、当初期待した効果が十分に達成されているものとはいえない。今後は、食品加工産業者との連携を強化するため、さらなる行政的な支援も期待したい。
2	(H20-普-03)県中南部向け非主食用水稲新品種「岩南29号」の育成【作物<作物>】 【目標→現状】	-	B	飼料用米は戸別所得補償における戦略作物に位置づけられ、岩手県でも施策推進に重要な品目である。当該品種の作付け面積も平成23年度で約440ha(種子供給量からの推定値、農産園芸課調べ)と順調に伸びている。
3	(H20-普-04)県中北部向け非主食用水稲新品種「岩手85号」の育成【作物<作物>】 【目標→現状】	B	B	飼料用米は戸別所得補償における戦略作物に位置づけられ、岩手県でも施策推進に重要な品目となっている。当該品種の作付け面積も約350ha(種子供給量からの推定値、農産園芸課調べ)と順調に伸びている。
4	(H20-普-06)直播栽培における水稲中期除草剤「ペノキスラム水和剤」の使用時期【作物<作物>】 【目標→現状】	-	B	成果公表時の当該除草剤の処理時期は、葉書を懸念したメーカーの意向もあり、「稲6葉期以降/ビエ5葉期まで」であったが、その後登録内容が変更され「稲3葉期以降/ビエ5葉期まで」(平成23年度防除指針)となった。従って、登録内容変更後は、成果の内容である「使用時期」について現場での使用場面は少ないと思われる。
5	(H20-普-11)品種 鉢物用リンドウ「ももずきんちゃん(花研鉢2)」【野菜花き<園芸>】 【目標→現状】 普及見込み生産量10,000鉢/年→H22販売実績 15,240鉢	B	A	平成22年の出荷量は15,240鉢と目標数値を上回った。平成23年は前年を上回る数量の苗が供給され、主要な2産地(北上、花巻)だけでも4.6万鉢と目標を大きく上回る出荷が計画されていることから、順調に増加していると言える。 出荷物に対する市場評価も高く、出荷数量の増加とともに出荷期間の拡大が期待されており、産地の生産拡大意欲につながっている。
6	(H20-普-15)肉質に優れる日本短角種種雄牛「辰郎」の作出【家畜育種<家畜育種>】 【目標→現状】	-	A	エリート牧区供用後も人工授精での利用が最も多い(H22)。その雄産子は地域から毎年直接検定候補牛として選定されてくる。
7	(H20-普-16)乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ中生品種「ゴールドデントKD660」【家畜飼養・飼料<家畜飼養・飼料>】 【目標→現状】 普及見込み面積 90ha→65.5ha(H23)	B	A	研究成果公表後の平成21年度から順調に作付面積は増加しており、平成23年度には単年度でも目標数値の70%以上の実績をあげている。 飼料用トウモロコシの中生・晩生品種に期待される高収量というメリットが現地でも受け入れられ、近年の自給飼料増産意欲の高まりを後押しするとともに今後更なる作付面積の拡大が期待できる。
8	(H20-普-17)平成21年度岩手県病害虫防除指針に採用した主な殺虫剤、殺菌剤【病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】	-	B	各地域の病害虫防除体系策定の際に活用されている。

*1:普及状況:農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満~50%)、C(50%未満~25%)、D(25%未満)、目標数値が定められていない場合は記載しない

*2:効果:成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果 A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)

(イ) 中央農業改良普及センターが評価した成果

No.	<code>成果名	普及状況	効果	評価コメント (成果活用等による効果等)
1	(H20-普-01)イブキジャコウソウ栽培マニュアル【農業経営<農業経営>】 【目標→現状】	-	A	景観、環境改善といった効果だけではなく、斑点米カメムシ対策としても注目を浴びた。マニュアル作成により、より身近な技術となった点と畦畔管理に対して農家の意識がさらに高まった点は評価が高い。
2	(H20-普-05)落水出芽を行う水稲湛水直播栽培に適する肥効調節型肥料の配合【PJ推進室<PJ推進室.>】 【目標→現状】 湛水直播面積の50%→30%	B	A	水稲湛水直播における肥料としてメーカーから商品も販売されており、湛水直播用に活用されている。
3	(H20-普-07)納豆用大豆「すずほのか」の播種適期及び好適栽植密度【作物<作物>】 【目標→現状】 普及見込み面積40ha→30ha	B	B	納豆用品種として徐々に栽培面積が拡大している中で、安定栽培に向けた指標として活用されている。
4	(H20-普-08)水田大豆の小畦立て播種栽培の導入効果(追補)ー播種機の改良オプションー【PJ推進室<PJ推進室.>】 【目標→現状】	-	B	成果で示された内容を参考にしているものの、成果をそのまま取り入れるのではなく、生産者個々で圃場条件にあわせ播種機を独自に改良しながら使用しているため、本技術そのものの普及率は低い。
5	(H20-普-09)りんご「黄香」の樹上裂果軽減対策【果樹<園芸>】 【目標→現状】	-	A	黄香は省力的な栽培が可能な黄色品種であるが、収穫時の裂果が課題であり、本成果はその裂果軽減のため現地指導で利用されている。なお、中央農業改良普及センターでは本成果等を活用し『「黄香」裂果対策マニュアル』を作成し、技術の普及を図っている。
6	(H20-普-10)出荷規格L(350g)を目標としたぶどう品種「サニールージュ」の花穂整形と適粒【果樹<園芸>】 【目標→現状】	-	A	「サニールージュ」は8月下旬から9月上旬に収穫できる種なしの品種として、紫波・花巻で栽培面積が増加している。本成果は有効な栽培方法として現地で利用されている。
7	(H20-普-12)リンゴの肥効調節型肥料を利用した株養成期の低コスト施肥法【生産環境<生産環境>】 【目標→現状】	-	A	りんごを栽培するほとんどの地域で当技術を導入しており、省力及び低コストの効果か得られている。しかしながら、滞水しやすい圃場では肥効が不安定になる傾向があることから、明きょ等の排水対策や即効性肥料の追肥の実施することで効果の安定を図っている。
8	(H20-普-13)県北地域における9～10月出荷用小ぎくの栽培体系【園芸(県北)<園芸(県北)>】 【目標→現状】 9～10月出荷用小ぎく栽培農家数に占める技術導入農家割合 100%→40%	C	B	現況ではボリュームが不足するなどリスクが伴うことから導入が進んでいない。規模拡大による作期拡大を目的とした導入の可能性は考えられる。
9	(H20-普-14)リンゴの育苗中に発生する苗腐敗症の発生病態と防除対策【病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】	-	A	これまで苗腐敗症が多発する事例が散見されたが、防除対策の確立により、被害の発生が抑えられている。

*1:普及状況:農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満～50%)、C(50%未満～25%)、D(25%未満)、目標数値が定められていない場合は記載しない

*2:効果:成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果 A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)

イ 指導区分

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
1	(H20-指-01)新技術等を導入した農業技術体系データ 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	B	中山間地における認定農業者の経営改善計画(水稲10a区画1ha体系)や集落営農組織における経営計画(小麦冬期播種栽培、大豆小畦立て播種栽培)の策定・見直しをする際に当該データを活用している。	経営計画策定や見直しの際に活用
2	(H20-指-02)生産技術体系を活用したきゅうり経営分析シート 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	C	目指すべき経営体(所得)と雇用導入の可否を簡易に判断できるシートだが、実際の場面では導入時期のきゅうりの単価に左右されるケースが多い。	摘葉ヘルパー等を検討するきゅうり産地で一部活用
3	(H20-指-03)集落営農組織の現状と展開方向 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	C	集落営農組織の発展段階別に現状と課題や展開方向が整理されているので、各組織へ支援する際の方向性や支援内容の参考にはなるが、組織によりおかれた状況が異なるので示された支援内容や方法をそのまま活用することが難しい。	—
4	(H20-指-04)園芸農家経営分析シート 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	C	時系列で経営評価できるのはよいが、複合経営の場合どの部門に課題があるのかがやや分かりにくく、十分に活用されていない。	園芸経営体の時系列経営分析に活用
5	(H20-指-05)稲作コスト低減技術情報ナビの作成 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	C	C	標準的な生産技術体系との比較・評価が簡易にできることは評価できるが、生産コストの中で最も大きな割合を占める施設・機械費の計算方法が異なること、経営改善のための分析としては同一生産者における年次比較も必要であること等から、十分に活用されていない。	—
6	(H20-指-06)水稲種子消毒用生物農薬の防除効果 【病理昆虫<病理昆虫>】 [民間委託,タイムリー]	B	B	環境保全型農業の推進に一定の成果があり、バカ苗病に対して注意を促している点は評価できるが、その後バカ苗対策が必要になった点を考えると成果として取りまとめたタイミングは遅かったと思う。	特別栽培米生産地域での農薬選定及び使用方法の参考資料として活用
7	(H20-指-07)集落営農組織における経営管理の展開方向 【農業経営<農業経営>】 [県単,タイムリー]	B	C	集落営農組織の経営管理を支援するうえで参考とはなるが、経理事務のみを一元化した組織など、この手法を適用できる段階にない組織が多いこともあり、十分な活用がされていない。	—
8	(H20-指-08)非主食用品種「岩南29号」および「岩手85号」の施肥法 【作物(技術)<作物(技術)>】 [県単]	B	B	飼料米・稲WCS用として作付けする際の施肥管理の参考としている。	飼料生産者等への技術指導の参考資料に活用
9	(H20-指-09)水稲湛水直播における作溝同時直播装置の開発 【PJ推進室<PJ推進室(水田農業)>】 [県単]	A	A	直播栽培で落水出芽を効果的に行う装置として評価高く、導入者から高い評価を得た。	直播栽培農家が当該装置を導入する際に活用
10	(H20-指-10)大区画水田における水稲直播栽培モデル体系 【PJ推進室<PJ推進室(水田農業)>】 [県単,要望]	A	B	モデルの提示、コスト意識を高めた点で評価できる。	各種会議や指導会の資料に活用
11	(H20-指-11)温湯浸漬処理済み水稲種子の長期保存条件 【病理昆虫<PJ推進室(特栽・有機)>】 [国庫補助,要望]	A	A	現場のニーズに対応した成果であり、大規模温湯処理施設の運営において、長期保存の裏付けデータとなった。	当該種子導入地域で長期保存の参考資料として活用
12	(H20-指-12)アカスジカスミカメに対する地域一斉防除が有効となる防除時期 【病理昆虫<病理昆虫>】 [独法委託,要望]	A	A	斑点米カメムシに対する薬剤の地域一斉防除の考え方に対して現場でやや混乱があったが、明確に防除時期を示した点を高く評価している。	各種会議や指導会の資料に活用

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
13	(H20-指-13)平成20年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析 【作物(技術)<作物(技術)>】 [県単]	A	B	その年の作柄を研究の立場から解析することは水稲の安定生産のうえで重要であり高く評価したい。さらに、データの精度や中長期的なデータの解析等があれば技術の方向性等を意識することが出来るので工夫が欲しい。	各種会議や指導会の資料に活用
14	(H20-指-14)肥効調節型肥料(シグモイド型)で水稲の肥料費を低減 【生産環境<生産環境>】 [民間委託]	A	A	市販されている肥料についても速くに肥料内容の見直しが行われ県内生産者に利用されている	各種会議や指導会の資料に活用
15	(H20-指-15)水稲における固定式タイン型除草機の除草効果 【PJ推進室<PJ推進室(特裁・有機)>】 [県単]	B	B	有機栽培生産者のニーズに対応した成果として評価したい。	有機栽培米生産者が当該技術を導入する際に活用
16	(H20-指-16)平成20年産麦・大豆の生育経過の概要と特徴 【作物(技術)<作物(技術)>】 [県単]	B	B	技術指導資料として参考になった。	各種会議や指導会の資料に活用
17	(H20-指-17)ダイズ紫斑病の効率的な薬剤防除体系 【病理昆虫<病理昆虫>】 [民間委託]	A	B	防除指針にも掲載され、紫斑病の防除に有効活用されている。	各種会議や指導会の資料に活用
18	(H20-指-18)発酵鶏ふんを利用した大豆の無化学肥料栽培技術 【作物(県北)<作物(県北)>】 [県単,要望]	A	B	肥料のコスト低減策として発酵鶏ふんで栽培している生産組織も出てきており、その参考となっている。	各種会議や指導会の資料に活用
19	(H20-指-19)キビ、アワの登熟特性からみた成熟期の推定 【作物(県北)<作物(県北)>】 [県単]	A	B	収穫適期の指導資料として有効活用されている。	各種会議や指導会の資料に活用
20	(H20-指-20)キビ、アワの機械収穫技術 【作物(県北)<作物(県北)>】 [県単]	A	B	コンバイン収穫が行われている地域で、指導資料として有効活用されている。	各種会議や指導会の資料に活用
21	(H20-指-21)生物農薬(BT水和剤)によるアワノメイガ防除条件下でのアワの生育特性から見た適正播種量と作期 【作物(県北)<作物(県北)>】 [県単]	A	B	生物農薬が使用されている地域での栽培資料として有効活用されている。	各種会議や指導会の資料に活用
22	(H20-指-22)りんご「ふじ」の樹上凍結が果実品質に及ぼす影響 【果樹<園芸(技術)>】 [県単]	A	A	凍害防止のため、現地指導の資料として活用されている。	指導会の資料に活用
23	(H20-指-23)りんご「シナノゴールド」の台木比較評価 【果樹<園芸(技術)>】 [県単]	A	A	「シナノゴールド」は有望品種として、面積が増えている品種である。苗木導入時の台木選択のための資料として利用されている。	指導会の資料に活用
24	(H20-指-24)県内主要りんご産地におけるナミハダニの薬剤抵抗性実態を踏まえた殺ダニ剤使用体系 【病理昆虫<病理昆虫>】 [国庫補助]	A	A	ナミハダニはりんごにおいて、大量発生が懸念される重要害虫であり、本成果は地域の防除暦作成において参考資料となっている。	防除暦の作成に活用

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
25	(H20-指-25)クラブアップル「ドルゴ」、「スノードリフト」の授粉専用品種としての特性 【果樹<園芸(技術)>】 [国庫委託]	B	B	品種間のドリフト削減や結実確保のための技術資料として利用されている。	指導会の資料に活用
26	(H20-指-26)授粉専用品種のポット大苗移植によるリンゴ単植園での結実安定効果 【果樹<園芸(技術)>】 [国庫委託]	B	B	品種間のドリフト削減や結実確保のための技術資料として利用されている。	指導会の資料に活用
27	(H20-指-27)ブルーベリー栽培における有機質資材の利用法 【果樹<園芸(技術)>】 [県単]	B	B	ブルーベリー栽培における有効な指導資料となる。剪定枝を粉砕するためのチップパーの導入数が少ないことが課題である。	指導会の資料に活用
28	(H20-指-28)四季成り性イチゴの主要品種の特性【南部園芸<南部園芸>】 [県単]	B	B	県内のいちご生産者を対象としたセミナー等において当該研究成果が周知され、一部で品種選定の参考になっている。	研修会等での情報提供に活用
29	(H20-指-29)四季成り性イチゴの摘果と摘花房処理の効果 【南部園芸<南部園芸>】 [県単]	B	C	四季成り性品種の導入されている地域の指導担当者が、該当品種の栽培管理指導をする際の参考資料となる。	指導者間での知見の共有
30	(H20-指-30)アスパラガス数品種の岩手県における年内どり伏せ込み促成栽培適性 【野菜花き<園芸(技術)>】 [国庫委託]	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されている。	指導会の資料に活用
31	(H20-指-31)トマトすすかび病とCf-9品種を侵す葉かび病(新レース)の新奇発生と診断のポイント 【病理昆虫<病理昆虫>】 [民間委託]	B	B	野菜栽培技術指針に当該研究成果の内容が盛り込まれており、診断のポイントが現地指導の参考になっている。	現地での病害診断の参考資料として活用
32	(H20-指-32)ハウレンソウ萎凋病に対するクロルピクリン錠剤の低薬量処理法 【園芸(県北)<園芸(県北)>】 [民間委託,要望]	B	C	実際の土壤消毒作業では被覆資材を新たに購入するのではなく、手持ちの中古資材を用いることがほとんどであるため、活用されていない。土壤中のガス濃度や萎凋病の防除効果のデータは土壤消毒の基礎データとして活用されている。	実証試験や指導の基礎データとして活用
33	(H20-指-33)小型反射式光度計及び示差屈折計を用いたレタス体内成分(硝酸イオン、糖)の簡易推定法 【生産環境<生産環境>】 [県単]	C	C	実際の生産流通場面で硝酸イオン、糖含量が必要になることがほとんどないので活用されていない。今後、新たな取引を確保する場合の売り込み材料の一つになる可能性がある。	—
34	(H20-指-34)GAP(衛生管理:トマト、きゅうり)における改善点と対策 【生産環境<生産環境>】 [県単]	B	B	GAP関係の品質管理チェックシート等の資料作成の際に参考になる。	品質向上の啓発資料の参考資料として活用
35	(H20-指-35)A4菌により作出したわい性リンドウ「A4PB No.34-25」の特性 【野菜花き <園芸(技術)>】 [県単]	B	—	特にPRしていないこと、育種の観点から普及活動をする機会がほとんどないことから、評価不能である。	—
36	(H20-指-36)パンジー鉢上げ用土としての杉樹皮培地の利用技術 【南部園芸<南部園芸>】 [県単]	B	B	一部地域で実証しているところであるが、生産現場に普及するためには培土メーカーによる商品化が必要である。	実証圃で導入する際に活用
37	(H20-指-37)リンドウ種子の調製・貯蔵技術 【野菜花き<園芸(技術)>】 [県単]	B	B	指導するうえでの根拠にすることができたが、さらなる種子供給の安定化につながる技術確立が望まれる。	各種会議や指導会の資料に活用

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
38	(H20-指-38)等温遺伝子増幅法(ICAN法)を利用したキクわい化病の簡便な検定法 【病理昆虫<病理昆虫>】 [県単]	A	A	普及センターでは病理昆虫研究室の協力を得て検定体制を整備し、キクわい化病の検定に対応している。	各地域で検定を実施する際に活用
39	(H20-指-39)泌乳牛における分離給与の飼料給与順序がルーメン発酵に与える影響 【家畜飼養・飼料<家畜飼養・飼料>】 [県単]	B	A	これまでも傾注されている管理項目であったが、客観的データの提示により定着はより進んだ。	指導資料等において活用
40	(H20-指-40)栄養管理による泌乳牛の尿量低減効果 【家畜飼養・飼料<家畜飼養・飼料>】 [県単]	D	D	尿量低減前に飼料給与管理に伴う乳量・乳質・疾病対策に重点を置かれているため、現場での応用場面は極めて少ない。	—
41	(H20-指-41)岩手県の黒毛和種在胎日数の現状と育種価および適合率 【種山畜産<種山畜産>】 [県単]	B	C	兆候により分娩を予測し対応するのが一般的であるが、大規模経営で効率的に分娩予測観察を行うための群管理の参考となった。	指導資料等において活用
42	(H20-指-42)ライコムギサイレージを活用した日本短角種の自給飼料主体肥育技術 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	D	自給飼料主体トウモロコシ多給肥育技術において一つの参考となったが、短角飼養地帯ではトウモロコシ・ライコムギの2毛作体系の実施が困難である。	指導資料等において活用
43	(H20-指-43)パークシャー種育成豚及び肥育豚の能力調査成績 I 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	—	豚飼養農家に対して指導する機会がほとんどないため評価不能である。	関係機関での情報共有に活用
44	(H20-指-44)豚の肥育後期(70～110kg)における玄米添加給与が産肉性に及ぼす影響 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	—	豚飼養農家に対して指導する機会がほとんどないため評価不能である。現場での活用では、玄米の供給とコスト低減が課題と思われる。	関係機関での情報共有に活用
45	(H20-指-45)産肉性から見た南部かしわ(K系)の適正な肥育終了週齢 【家畜育種<家畜育種>】 [県単,要望]	B	—	南部かしら飼養農家に対して、指導をする機会がほとんどないため評価不能である。	関係機関での情報共有に活用

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
46	(H20-指-46)飼料用トウモロコシ栽培における牽引式不耕起播種機の作業性 【家畜飼養・飼料<家畜飼養・飼料>】 [独法委託,要望]	B	B	TMRセンター等大規模栽培経営体における播種機更新の検討をする際の参考となった。	TMRセンター実績検討会等で活用
47	(H20-指-47)子宮頸管粘液pHによる黒毛和種の過剰排卵処理後の卵巢反応の推定 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	B	過剰排卵処理後の卵巢反応の数的な推定の目安として参考となった。	移植講習会で活用
48	(H20-指-48)受精卵移植時の血液検査値と受胎率・糞便pHとの関係 【家畜育種<家畜育種>】 [県単]	B	B	公共牧場における移植時の参考となり、更にタンパク過剰に至らない肥培管理(放牧草)検討につながっている。	移植講習会で活用
49	(H20-指-49)有機物の連用効果と土壤養分の過剰蓄積 【生産環境<生産環境>】 [県単]	A	A	本成果をもとに補給型施肥を盛り込んだ農作物施肥管理指針を平成21年に県で策定し、これに基づいた施肥体系について現在普及を図っている。	農作物施肥管理指針への考え方に盛り込まれた
50	(H20-指-50)県内水田土壌の施肥管理と化学性の変化 【生産環境<生産環境>】 [県単]	A	A	本成果をもとに補給型施肥を盛り込んだ農作物施肥管理指針を平成21年に県で策定し、これに基づいた施肥体系について現在普及を図っている。	農作物施肥管理指針への考え方に盛り込まれた
51	(H20-指-51)県内畑土壌の有機物施用と土壌の化学性の変化 【生産環境<生産環境>】 [県単]	A	A	本成果をもとに補給型施肥を盛り込んだ農作物施肥管理指針を平成21年に県で策定し、これに基づいた施肥体系について現在普及を図っている。	農作物施肥管理指針への考え方に盛り込まれた
52	(H20-指-52)基盤整備直後の法面管理としてのイブキジャコウソウの経営評価 【農業経営<農業経営>】 [県単]	B	B	イブキジャコウソウの導入に向けた作業量やコストの目安として参考となった。	導入検討に当たった参考資料として個別活用
53	(H20-指-53)リンドウこぶ症の発生生態に基づく当面の発生防止対策 【病理昆虫<病理昆虫>】 [国庫補助,タイムリー,要望]	A	B	当成果より得られた知見を指導場面で活用しているが根本的な解決に至っていないことから、原因解明が望まれている。	各種会議や指導会の資料に活用

※技術指導の参考になったか:A(大いに参考になった)、B(参考になった)、C(あまり参考にならなかった)、D(参考にならなかった)
指導効果(技術改善、技術水準の向上、指導効率の向上等):A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(まったくなかった)

3 東北農業試験研究成果

< 研究成果情報 >

(1) 研究成果数

推進部会名	作物	基盤技術	畜産	果樹	野菜花き	流通・加工	計
研究成果数	1	2	2	2	3	0	10

(2) 研究成果名

推進部会名	成 果 名	分 類	主査研究室
作物	立木果樹用ドリフト低減型スピードスプレーヤーのわい化リンゴ樹における病虫害防除効果	研究	技術部・作物
基盤技術	津波被災水田(無作付け)での自然降雨によるEC推移	研究	生産環境
	水田農業経営体の特徴と経営展開のポイント	研究	農業経営
果樹	立木果樹用ドリフト低減型スピードスプレーヤーのわい化リンゴ樹における病虫害防除効果	普及	果樹
	11月上旬に成熟する大玉で多汁のリンゴ新品種「岩手5号」	普及	果樹
野菜花き	アスパラガス伏せ込み促成栽培11月生産技術	研究	野菜花き
	エゾリンドウの塊茎と芽序に着目した株分解法	研究	生産環境
	エゾリンドウの主塊茎と副塊茎に着目した株の経年推移	研究	生産環境
畜産	飼料用トウモロコシの不耕起栽培における冬作ライ麦の最適刈取時期	普及	家畜飼養・飼料
	飼料畑及び不定形・波及状草地におけるトラクタ搭載型GPS作業支援システムを活用した除草剤散布作業精度の向上	普及	外山畜産